障がいをもつ子と家族ための
防災サバイバルキャンプ
運営マニュアル

# 防災サバイバルキャンプの作り方

ふじのくにNPO活動基金　助成事業

# もくじ

# CONTENTS

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・2

# 障がいをもつ子と家族のための「防災サバイバルキャンプ」

## 防災サバイバルキャンプは体験的な“きづき”の場

**いざというときに備える具体的な“気づき”を体得し**
**いざというときに支え合えるネットワークを“築く”場です**

東日本大震災では多くの貴い命が失われましたが、とりわけ障がいをもつ方は一般の方の２倍以上の死亡率であったことが報告されています。
また、幸い命は助かっても、障がいをもつ方は、避難所生活でも多くの困難を抱えやすく、いざというときにも避難所に行くこと自体を躊躇する家族が多いのが現実です。

私たち「みらいTALK」は、障がいをもつ子どもの防災をテーマに勉強会や講演会、各種ワークショップを行ってきました。とりわけ、「障がいをもつ子と家族のための防災サバイバルキャンプ」を開催することで、障がいをもつ子どもたちとそのご家族にとって、災害がどんな状況をもたらすのか、避難所では具体的にどんな困難が生じるのか、障がいをもつ子とご家族にとって命をまもるために優先すべきことはなにか、家族が準備しておくこと、支援者が準備しておくべきこと、避難所運営上の工夫など、多くのことを体験的に感じ、考え、語りあい、備えを整えていく術を得ることができました。
また、回を重ねるごとにスタッフの段取りや必要な配慮や支援などが整理され、いざというときの想定や対処がスタッフに体得されてきていること、活動を通じて新しいつながりができるなど、事業の成果があらわれています。

しかし、災害はどんなに準備していても、想定外の状況を生むものです。
想定外の状況を乗り切るための備えとなるのは
一声で柔軟に助けあえるような顔の見えるネットワークです。

このマニュアルの目的は、「障がいをもつ子と家族ための防災サバイバルキャンプ」を企画・実施するなかで、私たちが得てきたノウハウを共有することです。そして、同様の活動を行ってみたいと考える皆さんを応援することです。
事業実施のためのイメージができるように、小さな工夫もお伝えすることを心がけて作成しました。
このマニュアルが、最初の一歩を踏み出すお手伝いができると幸いです。
そして、こうした活動を通じて、いざというときの備えとなる“つながり”が生まれることを切に願います。

みらいTALK

# つくりかた

| | |
|---|---|
| **なかまをあつめる<br>実行委員会立ち上げ** | 活動の中心メンバーを集める |
| **コンセプトづくり** | なにを学ぶために<br>どんな想定が必要か？ |
| **日程・場所・予算調整** | いつやるか？宿泊？何日間？<br>どこで？　規模と予算は？ |
| **スタッフ＆参加者募集<br>プレスリリース** | 広報開始・スタッフ＆参加者集め |
| **役割分担<br>事前準備** | 準備のための役割と分担の明確化<br>物品準備、各種申請、<br>参加者への連絡、協賛あつめ　等 |
| **当日** | 防災サバイバルキャンプ2015の様子 |
| **ふりかえり** | 実行委員・ボランティア・<br>参加者の立場からの体験を共有 |

なかまをあつめる

# 中心メンバーを集め
# 実行委員会をたちあげよう！

## 活動の主体・主催団体は？

□□ 特別支援学校　□□ PTA　□□ 大学

□□ 親の会　□□ 福祉施設　□□ 社会福祉協議会

□□ 行政　□□ NPO、団体　□□ 地域

□□ その他

みらいTALKは、子どもに関わる多職種（医師・保健師・保育士、心理士など）が集まる団体です。
みらいTALKのメンバーが中心となりそれぞれが所属する職場等のつながりで、賛同してくれる実行委員を集めました。

## 目的の共有

なぜ、防災サバイバルキャンプを行うのか・・・この目的を明文化しておくことが、いつ、どこで、誰を対象に、どんなプログラムを行うのか、何を優先するのか、体験や活動を発信していく方法等、すべての議論の基準になります。
スタッフや参加者を募るうえでも、後援、協賛、助成等を申請する際にもだいじです。

（例）

❶障がいをもつ子にとって仮想避難所体験を通じて非日常生活への適応力の向上

❷障がいをもつ子の家族にとってワークショップや仮想避難所体験を通じて、何が必要で、何を準備すべきか、体験し、学ぶ場となる

❸避難所運営に当たって、障がいをもつ子と家族に必要な配慮、支援を見出し、提言する

❹障がいをもつ子と家族について市民の理解を深めるために、社会に向けて発信する

## 実行委員会の開催日の調整

実行委員会は開催日を準備期間を通じて５～６回、初回の実行委員会で決定しておきました。
実行委員会が開催される日を目安にして、それぞれの分担の仕事をすすめておくことができました。

みらいTALKには専属のスタッフはおらず、全員、多忙な仕事の傍ら準備を行っていきます。

# リアルな設定を追求しすぎると、危険が伴い、時間が足りない
# 安全を重視し準備を整えすぎると、体験にならない

仮想避難所体験を行うことは、演劇的な要素が多分にあります。
実際には水や電気はある状態、トイレも水洗が使用できるところで、あえてそれを使わず過ごしてみるために
参加者、スタッフ間で状況を共有するためのストーリー（設定）とルールが必要です。

今回の体験で何を学びたいのかを整理したうえで、具体的なコンセプトを話し合い決定します。

みらいTALKでは、初年度は宿泊施設を利用した体験、２年目・３年目は体育館での宿泊と段階的に経験しました。
また、季節は比較的過ごしやすい時期を選び、初年度、２年目は９月に実施しましたが、３年目は１０月に開催しました。
体育館は昼夜の寒暖差が大きく１か月の差で、環境がかなり異なってきます。
水や電気、自動販売機や水洗トイレの使用の制限については、時間帯や場所で、ライフラインの復帰を想定する方法を
とりました。

たとえば２年目の防災サバイバルキャンプでは、トイレの水洗をプールの水を汲み出して行いましたが、スタッフの人手が
必要で労力が大きいのですが、上水道が止まると下水道も使用不可になることが多く実際的ではなかったという
反省がありました。
「水洗にどれだけの水を必要とするか」や「水の運搬のたいへんさ」「トイレが水浸しになったとき、床に敷かれた新聞も
すべりやすく歩行が不安定な人にとって危険」などの学びもありました。

スタッフの間では、電気や食べ物、気候についてはともかく、トイレの抵抗感は強いようでした。
運営上、スタッフが倒れてしまっては元も子もないので、スタッフが参加者とどこまで体験を共有するのかは、
選択できる余地が残されました。これらは実際の避難状況とは大きく異なる点です。

やはり、ポイントは「何を学ぶためにどこを重視するのか」を明確にすることに尽きるようです。

## コンセプト

- □□ 災害発生何日目？
- □□ 避難者はどんな人たち？
- □□ そのとき ライフラインは？
- □□ 避難所環境は？
- □□ 備えは？
- □□ 季節は？
- □□ ライフラインはどこまで、いつまで止めるか？
- □ スタッフの確保は？
- □□ 参加者の安全性は？

## Story （例）

大地震発生３日後…

福祉避難所が開設され
地域の避難所や自宅避難の状態から特に配慮が必要な方を抱えた
ご家族が福祉避難所に集まることになりました。

発達障がい、肢体不自由をもつ子どもたち、人工呼吸器を必要とする方、アレルギーをもつ方、
外国人で障がいをもつ子のご家族などさまざまな方が集まり、体育館で共同生活をすることになります。

福祉避難所には、医師をはじめ専門スタッフがおりますが、特別な設備はありません。

水や電気。ガスなどのライフラインも止まったままです。

特別な食事、防寒具、子どもが安定できる遊び道具など避難した場合に必要と思うものを各自で用意して避難してください。

（例）

# サバイバル・ポイント

## 寒さ対策

寝具は毛布１人１枚のみです。
防寒具をご用意ください。

## 食事

アレルギー食、ミキサー食等、特別な
食事は各自ご用意ください。

## 空き時間の過ごし方

ぽっかりあいた時間があります。
お子さんがあそべるものを
用意しておくことが、
家族の安定につながります。

## トイレ

避難所のトイレは水が流れません。
簡易トイレを使う体験をします。
（なお、夕方以降はトイレが
復旧する予定です）

## 手伝って！と声をあげる

会場にボランティアセンターが開設されます。
ヘルプを求めることを練習しましょう。
「トイレにいきたいので子どもを見てて」
「食事を運ぶのを手伝って」
「お医者さん、いますか？」
無理や遠慮は危険です。

## ことば文化差

外国人のご家族もいます。
情報共有の工夫と配慮が必要です。
気がついたことがあれば
スタッフにご相談ください。

# 日程・場所・予算の調整

## 日程の決定

### 時期

障がいをもつ人には暑さ・寒さに弱い方も多いです。暑い時期と寒い時期では、備えも全く異なってきます。

私たちは比較的すごしやすい９月・１０月の時期を選択しましたが、それでも日中の暑さと夜の冷え込みがあり体調管理に配慮を要しました。

### 期間

「一泊ならがまんできるけど、二泊では・・・」　キャンプ終了後にそんな声が多くきかれました。
たとえば食事にしても、一日なら防災食も物珍しく口に運べるかもしれません。
何も食べれなくて、もってきた食べ物で一日ならしのげるでしょう。
また、夜あまり眠れなくても、一日なら体調を崩さずなんとか乗り切れるでしょうか。
お風呂も、排便も、ちょっと不自由な生活のストレスも、一日限りと二日・三日と長い体験ではまた違った課題がみえてきます。

## 場所の決定

### 会場

避難所といえば、体育館や公民館等の公共施設が指定されていることが多いです。
しかし、仮想避難所体験では、体育館や公民館は、本来、宿泊のために貸し出しされている場所ではないため、宿泊できる会場の確保が困難な場合があります。

事業実施に際し、みらいTALKでは、初年度はもともと宿泊施設となっている会場を使用しました。
その実績をもとに２年間以降は体育館を所有している福祉施設との共催という形で、体育館での宿泊体験が可能となりました。市町村や教育委員会等の後援を得ることも、会場確保のために事業の理解を求めるうえでの後楯となります。

### 環境

宿泊するとなると、医療的なケアが必要な子どもたちの健康管理にはじまり、咳や泣き声、体育館の床を歩く足音、床の状態、プライバシーの確保、温度などちょっとしたことも気になります。
また、自分で移動ができない子どもと多動な子どもなどさまざまな特性をもつ子どもたちを含んだ集団であるため、参加者同士も互いの状況の差に戸惑いが生じます。
、さらに、夜、トイレにいくときに足元が見えず、明かりが必要だった、通路の確保の必要性や冷たく硬い床対策など、サバイバルキャンプも回数を重ねると、不便な点と対策が事前に明らかになってきます。

実際の災害時には、これらの状況を選択する余地はありません。
しかし、防災サバイバルキャンプでは、事前にこれらの状況のコントロールがある程度可能なためどこまでの状況を設定し体験するかということを事前に共有しておく必要があります。
準備期間があり、分担した各チームで話し合いをしていくと、ともすると準備をしすぎて環境を整えすぎてしまいがちです。
重度の障がいをもつ子どもたちも参加する場であるため、運営上の安全確保のためにある程度の配慮も必要で、そのせめぎあいになります。

こんなとき、やはり何を体験するのかというコンセプトにたちもどり、目的を確認することが大事でしょう。

# 予算の調整

## 参加費

参加費は１泊２日のキャンプ期間中の２回の食費を目安に
一人につき１０００円としました。
家族単位の参加となるので、たとえば、両親と３人きょうだいで参加すると
５０００円です。
参加費があまり高額になると、参加のハードルがあがるため、参加費以外での
予算調達を行う必要があります。

## 助成金

企業や財団、基金など各種助成金情報を集めて応募します。
助成金情報はインターネットや社協などで集めます。
防災や障がい、地域活動、子どもの体験、家族支援など、事業や企画のコンセプトによって
さまざまな領域で公募されている助成金で目的にみあったものをさがします。
助成金応募は、お金の面だけでなく、助成先として認められることは、活動の意義を
認められるということでもあり、活動の成果をその後の啓発活動にもつなげていくことができます。
助成金の応募時期は前年度であることが多いので、計画的な申請が必要です。

## 協 賛

事業の趣旨を説明し、賛同いただいた企業や団体、個人から協賛金や協賛物品の提供を受ける。
協賛金は団体の法人格によって、寄付控除の対象になる場合とならない場合がある。
実際には、実行委員会などに関わる人からの直接的な個別の働きかけで趣旨を理解して協賛いた
だいたことが多かったです。顔が見える関係の強みを感じるところです。

賞味期限間近の備蓄品のアルファ米や水を防災サバイバルキャンプ用にご提供いただいたケース
もありました。ランニングストック、非常食の見直しの機会として、こうした使い方も良いです
ね。

また、ベッド用にちょうどよい大きさの段ボールが大量に提供してくださる地域の工場と
出会うことができました。
こうしたつながりが、いざというときにも心強いネットワークとなります。

### 協賛いただいた物品

・飲料水
・段ボール
・非常食（アルファ米、パン、ごはんプリン）
・段ボールトイレ
・タンク付き飲料水　etc・・・

# 予　算

（例）

| |
|---|
| 文具（マジック・布テープ・紙・はさみ・折紙等） |
| ソーラーランタン、投光器 |
| 段ボールトイレ・段ボールベッド |
| 毛布レンタル |
| 調理用ガスボンベ、卓上コンロ |
| 紙コップ、紙皿、割り箸 |
| 食材（缶詰、味噌汁・スープ、クラッカー等） |
| |
| 有償託児スタッフ |
| ワークショップ・講演　講師謝礼 |
| |
| 会場使用料 |
| ゴミ処理代 |
| 駐車場・ガソリン代 |
| 保険料 |
| |
| チラシ・しおり・報告書の印刷・デザイン料 |
| 案内・しおり・報告書の送料 |
| |

備品を購入するとその後の処理や保管場所の問題が出てきます。
実際に準備・使用したものは、ついたてやマット、発電機、投光器、医療機器、その他
いろいろありましたが、各施設からお借りしたり、スタッフの持ち寄りで対応したものも多いです。

# スタッフ＆参加者募集
# プレスリリース

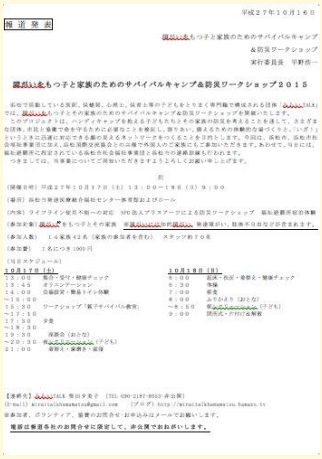
## チラシづくり

参加者用のチラシを作成します。
参加対象とする参加者の特性・年齢にあわせて特別支援学校、特別支援学級、医療機関、通所施設等に配布を依頼します。
このチラシをもとにスタッフも募集します。
いずれも実行委員・関係スタッフからの人づての情報が有効です。

## 協賛募集用チラシ

主催団体、企画趣旨、概要、振込先などを明記した「協賛のおねがい」のチラシも作成します。

協賛金のほか、協賛物品として、防災ブッズ、非常食、飲料水等、今回の事業で使用できるもの、参加者に配布できるものを募集しました。




## プレス・リリース

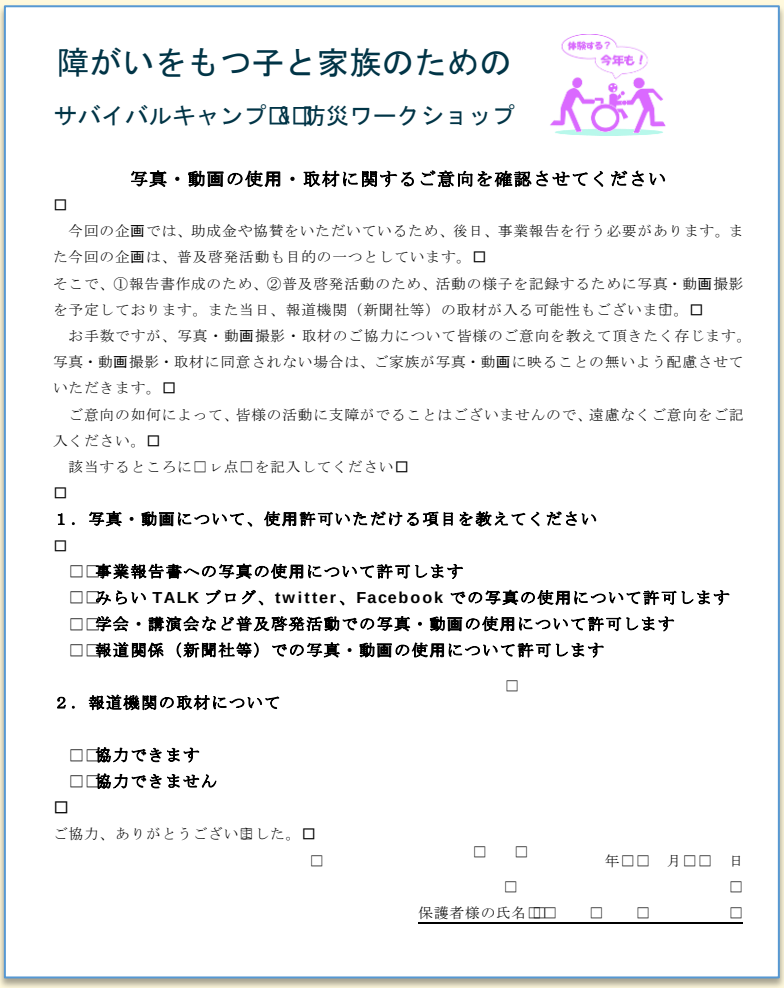
新聞社等に今回の事業についておしらせします。
参加者やスタッフ募集の時期と防災サバイバルキャンプ開催の１週間前に事業の資料と依頼文書を提出します（直接新聞社にFAXやメールで通知したり、市役所の広報課に提出する方法を選択しました。）
参加者やスタッフ募集の記事を掲載されたり当日取材にきていただき
記事を掲載していただける場合があります。

## インターネットでの広報

ブログやホームページ、ツイッターやフェイスブックなども
参加者やスタッフ募集のための有効な媒体です。
申し込みはブログからも可能なように整え、アクセスしやすくすることも

みらいTALKでも、防災サバイバルキャンプの参加者募集のほか、当日の様子、団体の概要、団体が主催する他の活動等も発信しています。

防災サバイバルキャンプは参加者の体験活動でもあり
参加していない人への啓発活動でもあります。
参加する人にも参加していない人にも情報を発信していく必要があります。



障がいをもつ子と家族のための

サバイバルキャンプ□&□防災ワークショップ

体験する？ 今年も！

**写真・動画の使用・取材に関するご意向を確認させてください**

□

今回の企画では、助成金や協賛をいただいているため、後日、事業報告を行う必要があります。また今回の企画は、普及啓発活動も目的の一つとしています。□

そこで、①報告書作成のため、②普及啓発活動のため、活動の様子を記録するために写真・動画撮影を予定しております。また当日、報道機関（新聞社等）の取材が入る可能性もございます。□

お手数ですが、写真・動画撮影・取材のご協力について皆様のご意向を教えて頂きたく存じます。写真・動画撮影・取材に同意されない場合は、ご家族が写真・動画に映ることの無いよう配慮させていただきます。□

ご意向の如何によって、皆様の活動に支障がでることはございませんので、遠慮なくご意向をご記入ください。□

該当するところに□レ点□を記入してください□

□

**１．写真・動画について、使用許可いただける項目を教えてください**

□

□□事業報告書への写真の使用について許可します
□□みらい TALK ブログ、twitter、Facebook での写真の使用について許可します
□□学会・講演会など普及啓発活動での写真・動画の使用について許可します
□□報道関係（新聞社等）での写真・動画の使用について許可します

□

**２．報道機関の取材について**

□□協力できます
□□協力できません

□

ご協力、ありがとうございました。□

□ □ □ 年□□ 月□□ 日

□ □

保護者様の氏名□□ □ □ □

## 個人情報への配慮

防災サバイバルキャンプの事業やそこで得られた体験や教訓を発信してゆくには、参加者の個人情報への配慮が不可欠となります。

みらいTALKでは、啓発活動としての趣旨を説明のうえ、活動中の写真や動画について使用可能な範囲、報道機関の取材協力の可否についてを書面で確認しました。

# 役割分担

## 本部・事務局

・全体統括・運営・進行
・実行委員会開催
・スタッフ連絡網づくり（メーリングリスト）
・参加申し込み管理・連絡
・チラシ・しおり・記録集製作
・保険
・当日の統括・情報発信　他

## 受付・会計

・予算管理（小口現金・立替払い清算・領収書整理）
・協賛金の管理
・参加費徴収
・決算報告書の作成　他

## 医療

・医師・看護師・保健師など
・健康観察、問診
・医療的ケア　　他

★福祉避難所体験では、医療的ケアを必要とする参加者が想定されるため、安全のために確保が必要な専門職は有償ボランティアとして依頼するのも一方法です。

## 広報

・チラシ制作
・ブログ・ホームページ管理
・プレスリリース
・個人情報への配慮

## 会場

・避難所内の配置
・段ボール、毛布、パーテーション、マット等の手配
・寒さ、暑さ、あかり、虫対策
・トイレ（どこまで体験するか）
・ゴミ箱の設置
・案内サイン
・場所の構造化　　など

## 食事

・非常食・メニュー検討
・アレルギー・食形態への対応
・炊き出しや調理のための水確保
・鍋・食材・食器の手配・管理
・生ごみ処理　など

## ワークショップ

防災サバイバルキャンプ期間中のプログラム
・講演会
・体験型防災教育（新聞紙スリッパ、ゴミ袋のカッパづくり等）
・防災グッズ・工夫の紹介
・座談会　など

## レクリエーション&託児

・参加児の情報整理（呼び名・好きなもの・苦手な刺激　他）
・キャンプ期間中のワークショップや講演会等の時間の
　子どもの託児
・夜のレクリエーション
・すきま時間のすごしかた
・避難所にあるものでの遊びの提供　など

## ボランティア

・ボランティア募集・集約・連絡・
（地元の大学やボランティアサークル・関係機関への呼びかけ）
・社会福祉協議会・災害ボランティアコーディネーターとの連携
・模擬ボランティアセンターの立ち上げ
・多言語ボランティアの手配
・手話通訳

## 記録

・記録用の写真・動画の撮影
・個人情報への配慮と許可範囲の確認・周知
・撮影のルールの整理
・記録集等の制作

## その他　～連携～

・行政機関（市区町村）
・社会福祉協議会・災害ボランティアコーディネーター
・外国人への対応・・・浜松国際交流センター
・特別支援学校
・福祉施設
・地域自治体
・大学
その他の機関との連携

DOCUMENT 2015

# 障害をもつ子と家族のための防災サバイバルキャンプ

★日時：2015年10月17日（土）～10月18日（日）

★場所：浜松市発達医療総合福祉センター体育館（浜松市指定福祉避難所）

《参加対象者》障がい※をもつ子、障がいをもつ方、外国籍の子ども、およびそのご家族
※障がいは、肢体不自由、知的障害、発達障害を含む（保護者同伴。きょうだいも参加可能。）
《参加費》　１名1000円
《スタッフ》小児科医、保健師、保育士、施設職員、心理士等の専門職を含み、参加者の心身の安全に配慮しながらサポート
《活動内容》防災ワークショップ＆福祉避難所宿泊体験
（非常食•防災グッズ体験、ライフライン停止への対応、体験の振り返りと共有など）

★参加者：障がいをもつ子、障がいをもつ方、外国籍の子ども、およびその家族
13家族36名（申し込み15家族44名）
（年齢）　1～56歳（うち障害をもつ子（方）3～22歳）
18歳未満　17名
18歳以上　19名
（性別）女性　19名
男性　17名
（障害種別）要援護者13名中（療育手帳所持5名、身体障害者手帳所持5名）
発達障害　6名
知的障害　2名
身体障害　5名
（うち1名：経管栄養、1名：人工呼吸器管理＋気管切開・吸引＋経管栄養、1名：気管切開・吸引）

（外国籍別）
ポルトガル語　1家族2名（うち1名身体障害）
スペイン語　1家族2名（うち1名知的障害）

★スタッフ：75名
（スタッフ内訳）
災害時多言語ボランティア 10名
（ポルトガル語2名、ベトナム語2名、インドネシア語2名、英語1名、HICE3名）
学生ボランティア　23名（うち大学生20名、高校生3名）
そのほか当日ボランティア 7名
ボランティアコーディネーター　4名
実行委員　31名

## 当日の流れ　SCHEDULE

10月17日（土）

| | |
|---|---|
| 13：00 | 参加者集合・受付・健康チェック |
| 13：45 | オリエンテーション |
| 14：00 | 会場設営・簡易トイレ体験 |
| 15：30 | ワークショップ親子サバイバル教室『イザ！カエルキャラバン！』 |
| 17：30 | 夕食 |
| 19：30 | 座談会（おとな）　夜レクリエーション（こども） |
| 21：00 | 着替え・歯磨き・就寝 |

10月18日（日）

| | |
|---|---|
| 6：00 | 起床・洗面・着替え・健康チェック |
| 6：30 | 体操 |
| 7：00 | 朝食 |
| 8：00 | ふりかえり（おとな）　朝レクリエーション（こども） |
| 9：00 | 閉所式・片づけ・解散 |

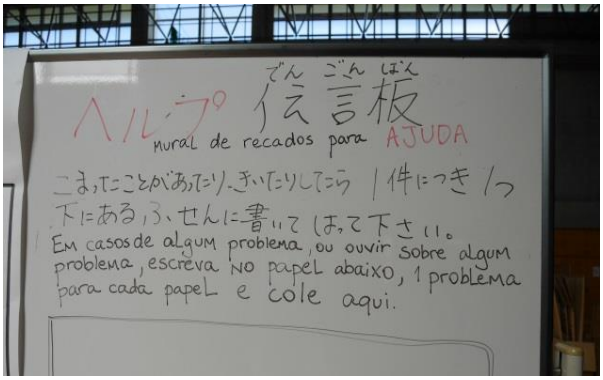
## 防災サバイバルキャンプ２０１５のルール

今回のキャンプは、**“今、用意してある非常用持ち出し袋を試してみる機会”**です。各自、避難所生活に必要と思われるものを持参してください。
**体育館内は電気、ガス、水道を止めて、ライフラインの止まった状態**を再現しています。できるだけ実際に近いであろう避難所生活を「体験」してみてください。
**当日、１人につき４リットルの水を配布します。**この中で食事や歯磨き、洗面などの保清をして頂きますので不足にならないよう考えて使用してみてください。
水や物資など、参加者同士で融通しあうことは可能です。
**アレルギー食や特殊食などの用意はありません。**
**トイレは簡易トイレ**です。（夕方以降は、トイレが復旧する予定です）
**入浴、洗濯機の使用はできません。**
**自動販売機、テレビ等は使用できない設定**としています。
**宿泊は体育館を間仕切りをして**就寝します。
**寝具は一人あたり毛布一枚だけです。防寒具をご用意ください。**
当日、体育館入口に**ボランティアセンター**が開設されます。
**人手が必要なときにはボランティアセンターにお申し出ください。**
**連絡事項やだいじな情報は体育館内のホワイトボードに書きます**のでチェックしてください。
体験を共有し、次に生かすためのサバイバルキャンプです。
活動中、気づいたこと、気になったことは、**その場でスタッフに声をかける、ふせんに書いてホワイトボードに貼る、座談会やふりかえりで話す**などの方法で積極的に共有しましょう。
1日目の座談会と2日目の振り返りは、予定では保護者の方と子どもさんは別行動となっていますが、お子さんの状態に応じて判断します。

## 入所・部屋割り

問診で基本情報を収集し、医療的ケアの内容や感覚過敏性など）を基に部屋割りを行いました。昨年度と同様、医療的配慮が必要な方を医療班が常駐する本部近くのに、感覚過敏性のある方は角などなるべく静かな環境が得られるように、部屋を割り振りました。

参加者が13家族36名で、一家族あたり2m×4mのスペースを確保できたこともあり、部屋割りに関して異論は出ることはありませんでした。



当日

２０１５
防災サバイバルキャンプ

# 医療班の問診

受付後に問診ブースにて問診票（資料別添）を用いて、配慮が必要な方について医師・ボランティア学生のペアで一次問診を行いました。問診ブースは3ブース用意し、日本語の方は一家族約5分で一次問診を終了できていました。しかし外国籍の方には災害時多言語ボランティアの方が通訳として同席していただきましたが、日本語の方の約3倍、15分ほどの時間がかかり、流れが滞り、子どもが待てなくなる場面も見受けられました。

一次問診のあと、入所、荷物搬入していただき、その後、医療班（医師・看護師・ボランティア学生）が二次問診および健康チェック（体温、血圧、脈拍、必要な方は酸素飽和度測定など）を行いました。今回は幸い発熱されている方はおられませんでしたが、実際の場面では発熱や感染症の有無によって隔離も含めた部屋の調整が必要になると思われ、体温だけでも一時問診時に非接触式体温計で計測するなどの工夫は必要と思われました。また医療班とは別に保育班でもお子さんの特性についての問診シートを作成し、別で聴取を行っていたため、重複する項目もありました。今後は、医療班と託児班が一緒に二次問診を行うことで参加者の負担の軽減が図れると思われます。

サバイバルキャンプ□問診の流れ

総合案内で受付

↓

問診ブースで初回問診
３ブース設置
ボラ：医大医学部・看護学部□6 名
HICE 通訳ボラも待機

↓

初回問診内容を医師・看護師に確認

↓

体育館での居住ゾーンを確認

↓

会場設営スタッフよる誘導

↓

全参加者の問診後、バイタル
「聞き取り表」の聴取

# 問診シート

## 医療班 問診シート

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 氏名(お子様) | | 男 ・ 女 | 生年月日 | (　　歳) |
| 住所 | | | 電話番号 | |
| 現病歴<br>既往歴 | | | | |
| 家族構成 | | | | |
| 家屋状況 | | | | |
| 介護保険<br>障害福祉<br>(サービス内容) | □要支援1 □要支援2 □要介護1 □要介護2 □要介護3 □要介護4 □要介護5<br>□身体障害者手帳(　　) □療育手帳(　　) □精神保健福祉手帳(　　)<br>( ) | | | |

ADL情報(支援の必要性を確認するための検討事項)

| Barthel Index(BI) | 自立 | 要介助 | 全介助 |
|---|---|---|---|
| 1. 食事 | 10 | 5 | 0 |
| 2. 移乗 | 15 | 10～5 | 0 |
| 3. 整容 | 5 | 0 | 0 |
| 4. トイレ | 10 | 5 | 0 |
| 5. 入浴 | 5 | 0 | 0 |
| 6. 歩行 | 15 | 10 | 0 |
| (車いす) | 5 | 0 | 0 |
| 7. 階段昇降 | 10 | 5 | 0 |
| 8. 着替え | 10 | 5 | 0 |
| 9. 排便 | 10 | 5 | 0 |
| 10. 排尿 | 10 | 5 | 0 |
| 合計点 | 点 | | |

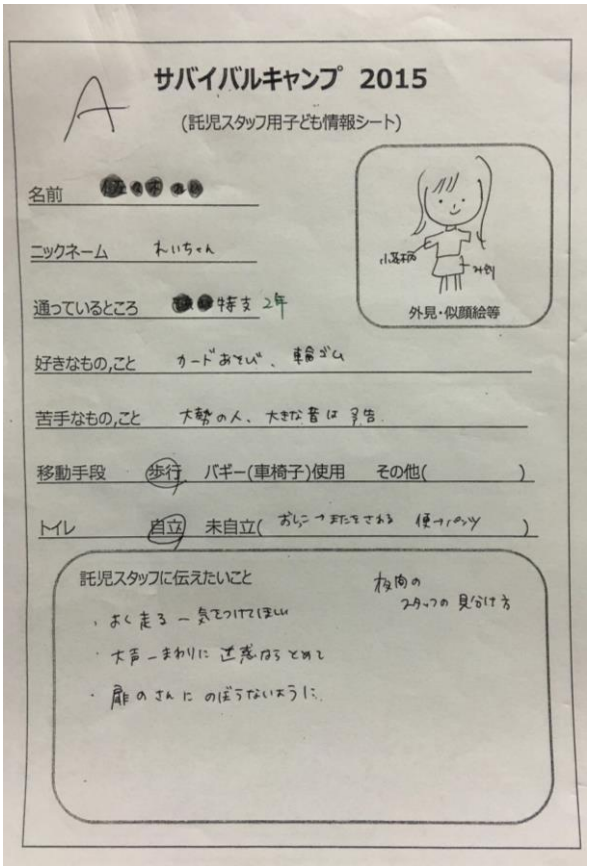
| | |
|---|---|
| 受診している専門機関<br>(今後連携が必要な専門職) | |
| アレルギー | |
| 初回の判断 | (　　)A. ゾーン BI:0～40 点(大部分介助・全介助)<br>(　　)B. ゾーン BI:40～60 点(部分介助)<br>(　　)C. ゾーン BI:100 点(全自立) |

＜注意点＞

・医療的ケア・医療行為を必要とする方は、A エリアを選択。

・不明な点は医師に確認。

| お名前 |
|---|
| ・必要とするケア |
| ・服薬状況 |
| ・配慮をすべき点 |


A

サバイバルキャンプ 2015

(託児スタッフ用子ども情報シート)

名前 [illegible]

ニックネーム れいちゃん

通っているところ [illegible]特支 2年

外見・似顔絵等

好きなもの,こと カードあそび、輪ゴム

苦手なもの,こと 大勢の人、大きな音は予告

移動手段 歩行 バギー(車椅子)使用 その他(　　)

トイレ 自立 未自立( おしっこ→またをさわる 便→パンツ )

託児スタッフに伝えたいこと

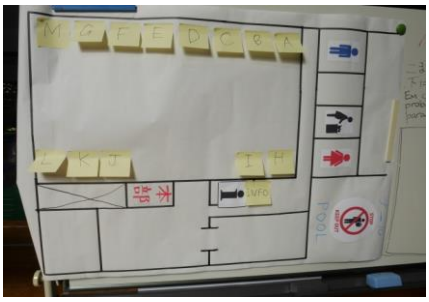
・よく走る 一気をつけてほしい

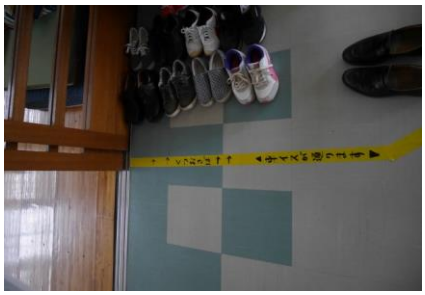
・大声 一まわりに迷惑ならとめて

・扉のさんにのぼらないように

校内のスタッフの見分け方

## 託児班 問診シート





## 会場設営・簡易トイレ体験

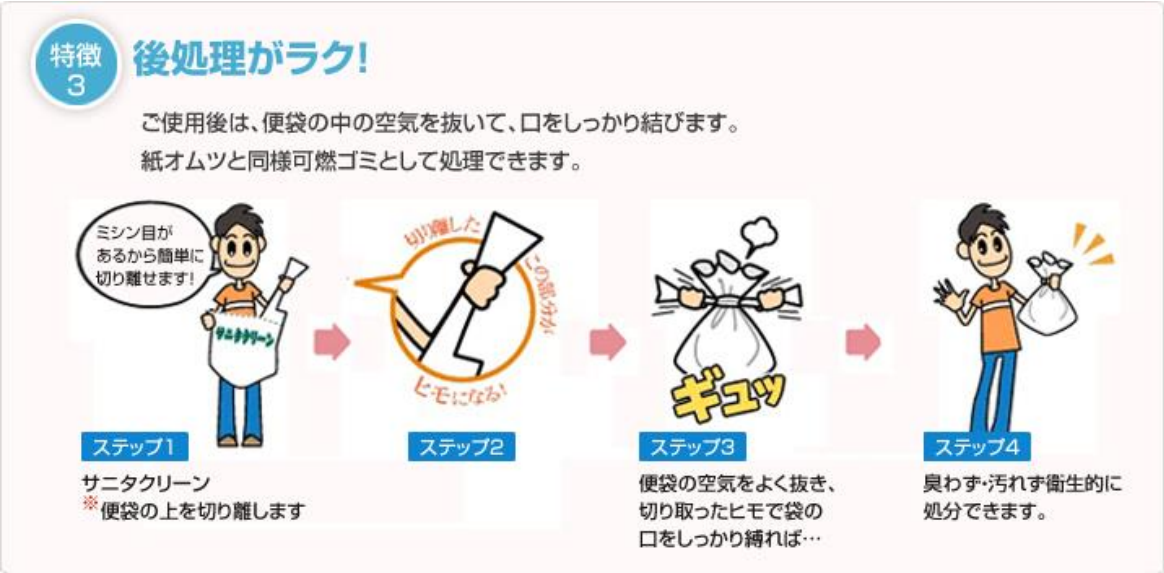
オリエンテーションでルールの説明および水や段ボールの配布を行いました。
昨年度に引き続き、浜名梱包さんのご協力で不要となった段ボール箱を提供していただき、昨年より多く用意できたこともあり、今年度は家族全員が段ボール箱を組み合わせた段ボールベッドで寝ることができました。段ボール箱を組み合わせることで、市販の段ボールベッドと強度的には遜色がなく、段ボール内の空洞により保温効果も得られ、また地上高25cmほどの高さで寝ることで埃の影響も低減できます。何より安価ですし、高さも子どもが転落しても安心の高さです。今後は浜名梱包さんと災害時協力の協定を結べれば、常に一定量の段ボールを備蓄しておき、災害時に対応できる体制づくりをできるとよいと考えています。
　また今回、見本として市販の段ボールベッド（暖段はこベッド：Jパックス株式会社）を避難所中央に2セット用意しましたが、そこが自然と夕食や朝食あるいは空き時間に参加者同士の集いの場となり、また子どもがレクリエーションで遊ぶときに机替わりとなり、大変重宝しました。スペースに余裕があれば、こうした多用途スペースも避難所中央部に設置できるとよいかと思われます。
　今年度はワークショップ終了までは下水道が復旧していない設定としたため、それまでの時間で簡易トイレを全員に体験していただきました。簡易トイレ（非常用簡易トイレ『たすけくん』：トミタパックス株式会社・NPO法人すだち）は多くの方はうまく利用できていたようですが、一部うまく利用できなかった方もいました。昨年度より照明を増やしたため、トイレの暗さは解消されていました。トイレの利用にあたってはおおむね目標は達成できていましたが、避難所生活が長期化することを念頭に、消臭剤の備蓄を行うことや汚物がたまってきた際の処理方法については検討が必要と思われました。また昨年度は避難所内におむつ替えコーナーを用意していましたが、利用がなかったため、今年度はおむつ替えコーナーを用意していませんでした。しかし今年度の参加者からおむつ替えコーナーが必要との意見がありましたので、個室などでおむつ替えコーナーの設置ができるとよいと思われます。

# ワークショップ
## ～親子サバイバル体験　イザ！カエルキャラバン！～

NPO法人プラス・アーツにワークショップを行っていただきました。日本における地震についてのクイズ形式の講義では、事前に準備しておきたい10品目（①ポリ袋、②新聞紙、③体拭き用ウェットタオル、④ラップ、⑤カセットコンロ・ボンベ、⑥非常食、⑦水、⑧災害用トイレ、⑨LEDランタン、⑩口腔ケア用ウェットティッシュ）の紹介がありました。その後毛布担架体験、新聞紙でお皿、お盆作り、段ボールとポリ袋と新聞紙で簡易トイレ作りを行いました。皆楽しみながら、災害時に役立つ知識を勉強しました。

# 災害用トイレの使い方

□□
□□




□□

※使用後の便袋はトイレ内に設置してあるポリバケツに入れてください

## ワークショップ口

### イザ！カエルキャラバン！口

NPO法人プラス・アーツがプロデュースする、新しい防災訓練のシステムがイザ！カエルキャラバン！
美術家・藤浩志さんが全国で展開するおもちゃの物々交換プログラム、「かえっこバザール」のシステムと、ゲーム感覚で楽しみながら消火・救出・救護など災害時に必要な知恵や技を学べる「防災訓練プログラム」を組み合わせた画期的なプログラムです。
2005年に神戸で始まり、評判を呼んで全国各地で開催されるようになりました。現在では海外にも活動の輪が広がっています。

151007 NPO 法人プラス・アーツ

# ゲームで学ぼう！親子サバイバル教室

## ～ワークショップ充実 ver～

◆実施プログラム案

＜前半：講義＞

1. 自宅避難生活に役立つ防災グッズ　暗記クイズ

自宅避難生活を送るために、備えておきたい防災グッズ 12 品目を暗記クイズ形式でおぼえてもらいます。住み慣れた家での避難生活を少しでも快適にするために役立つグッズを紹介します。

2. 災害時の食時　非常食新常識クイズ

現在、家庭での食の備蓄は「一週間分以上の量」が推奨されています。これまでの「3 日分」を大きく上回る備蓄を実現するために、日々の暮らしの中でできる備蓄の技をクイズ形式で紹介します。

＜後半：ワークショップ＞

3. 紙食器づくり

新聞紙やいらなくなったチラシなどを使って、紙の食器を作ります。地震でお皿が割れ使えない時は、ポリ袋やラップを被せると食器として活用できます。

4. 毛布で担架トライアル

身の回りにある毛布で応急的に担架をつくり、けが人を搬送する方法を体験してもらいます。担架が不足する被災地で、身の回りのものを使った簡単かつ機能的な担架の作り方を学ぶことができます。

5. 身近なものでできるサバイバルトイレづくり

災害時、家庭のトイレが使えない時や災害用トイレの備蓄が無くなってしまった時に役立つ身の回りのあるものを使ったトイレづくりを体験します。

6. キッズ防災マスター認定証授与

防災ゲーム大会の最後は、参加賞として、子ども全員に「キッズ防災マスター認定証」と缶バッジ、さらに、「防災マニュアルブック」を参加人数分、贈呈します。

参加賞：景品例

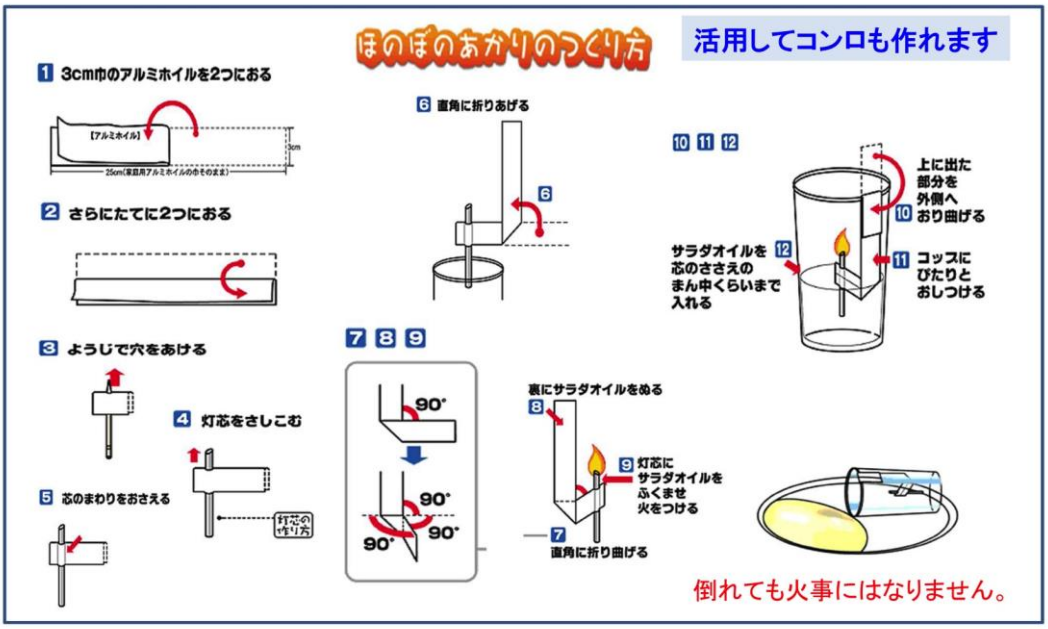
参加賞：キッズ防災マスター認定証＋カエルキャラバン公式缶バッチ（子ども全員分）
緊急時の連絡ガイドブック（参加者全員分）＋地震 ITSUMO 防災テキストブック（1 家族 1 部）

キッズ防災マスター認定証
＋ カエルキャラバン公式缶バッチ

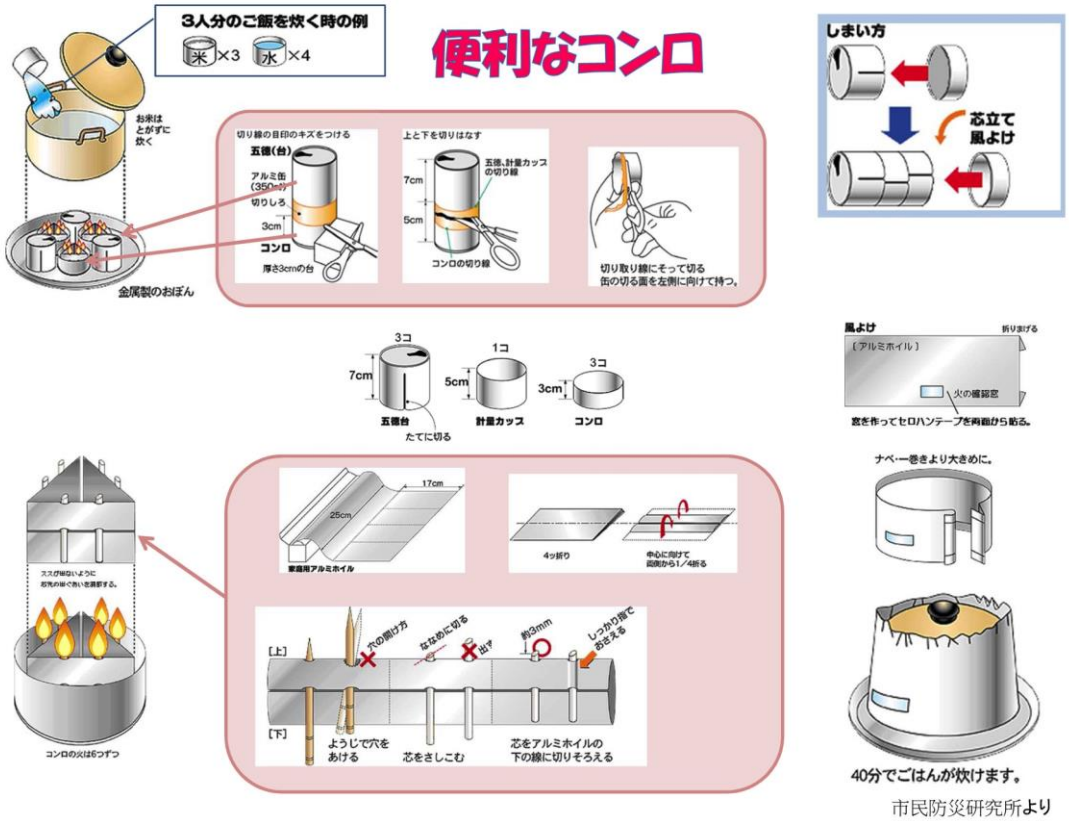
緊急時の連絡ガイドブック

地震 ITSUMO 防災テキストブック

# 身の回りのものを使って




市民防災研究所より




市民防災研究所より

# 夕食

おにぎらずを参加者各自で作りました。おにぎらずでは各自が好きなおかずを選べ楽しみながら食事を作ることができ、またゴミの減量にもつながりました。ごはんは福祉避難所にある炊き出しステーションを利用しましたが、ご飯を炊くため、そしてお釜を洗うために大量の水が必要となり、避難所利用者全員のご飯を炊くことも難しかったため、最終的にはアルファ米も使用しました。

## 食料班より

## メニュー＆参加者へのお願い

・当日は、アレルギー対応がない場合を想定しています。

食物アレルギーのある方は、持ち出し品として除去食をご持参ください。

・ミキサー食が必要な方は、スタッフにお声をおかけください。

### メニュー＆レシピ

１０月１７日（土）　～夕食～

☆おにぎらず・・・中に入れる具材は、ツナ、ウィンナー、焼き鳥、鮭フレーク等
缶詰製品を使用します。
ご飯は、炊き出しステーションで炊いたものです。
ご飯の味付けは、白米そのまま、塩味、すし飯があります。
好みの具やご飯の味付けを選んで、ご家族で作ってみましょう！

☆味噌汁　・・・炊き出しステーションで温かいみそ汁を作ります。
味噌汁の具はワカメ等、乾燥保存されたものを使用します。

★★★　おにぎらずの作り方　★★★

① 全形のりの中央にごはんを広げ、
塩をふる。
または、酢飯にしたごはんを置く。

② お好みの具を選んで、のせる。

③ さらにごはんをのせて、サンドイッチ状にする。

④ 四すみを中央に寄せてたたむ。

⑤ ラップごとくるむ。

## 夜レクレーション

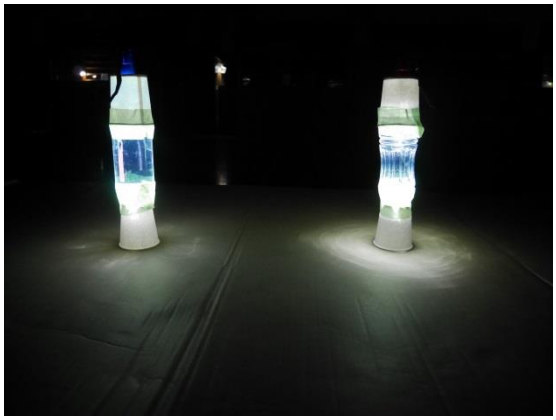
ポリ袋にマジックや折り紙、新聞紙などで子どもたちが思い思いにデザインして、作品作りを行いました。その後、発電機（エネポ：ホンダ株式会社）を利用して投光器を稼働させて、壁にそれぞれの作品を映し出して披露しました。皆とても楽しみながら参加してくれていました。それぞれLEDランタンや懐中電灯を利用して遊びを自由な発想で編み出したりもしていました。電池式キーボードで音も楽しめてあっという間の1時間だったようです。

## 座談会

ペットボトルと100円均一で購入したLEDで作成した手作りランタンに加えて、今年度はアロマキャンドルも用意していました。1グループ3～4家族で、日ごろの防災対策や不安に感じていること、1日目の体験について情報交換を行いました。

## 就寝

例年、数名眠れないお子さんがいたのですが、今年度は皆よく眠れていたようでした。夜間はLEDランタン（Mpowerd：MCMジャパン株式会社）や座談会で使用した手製のLEDランタンで必要な明かりを確保しました。天候に恵まれたこともあり、17日の最高気温が26.6℃、18日の最低気温が16.4℃と予想していたより冷え込みは強くありませんでしたが、体育館内は気温以上に寒さを感じ、寒さ対策が重要であると再認識しました。幸い大きく体調を崩される方はおられませんでしたが、喘息発作が軽く出てた方もおられ、常備薬を持参していただくことに加え、福祉避難所（特に医療機関併設されているところ）では可能であれば基本的な治療薬（ホクナリンテープ®やパルミコート®など）がストックされているとよいかもしれません。



## 起床・体操

朝は６時３０分からラジオ体操。
スマートフォンを電池式のモバイル型スピーカーにつないでラジオ体操を行いました。
さらにマイクのアプリを入れたスマートフォンをこのスピーカーにつなぐと、拡声器より格段に聞きやすかったです。

## 朝食

朝食はクラッカーや食べられるお皿にシーチキンやスープをいただきました。朝、少し冷え込んだので温かいスープはとてもおいしかったです。食事の配置も夕食と同様、流れ方式（学食方式？）で滞りなく順番に好きな物を選んでいける工夫がされていました。トレー代わりにクラッカーの空き箱がたいへん重宝しました。またホリカフーズ株式会社さんより「プリンおかゆ」、株式会社眞照さんより「三穀食」の試供品をいただき、皆さんに試食していただきました。どちらもとても食べやすくおいしく、保存もでき、非常食としても普段食べる食事としても自宅にあるといいなと思えるものでした。皆さん自然と中央の見本段ボールベッドをテーブル替わりにして、集って楽しくお話しながら、食事をされていました。

１０月１８日(日)　～朝食～

☆クラッカー類

＊クラッカーのトレーは食べることのできる、せんべいで出来たものです。えび、玉ねぎ、紫いもからできています。お好きな味を一枚選んでください。最後にトレーも食べて、ゴミを減らしましょう。

☆コンソメスープ・・・炊き出しステーションで作ります。
じゃがいも、たまねぎ、コーン、大豆入りです。

＊腐りにくい野菜と缶詰を利用したスープです。

## 「炊き出しステーション」って、どんなもの？

←今回使用するものです。

ガスボンベイにつなぎ、
向かって左側でご飯を炊きます。
右側でお味噌汁やスープを作ります。
大人 120 人分のご飯が炊けます。

## 朝レクリェーション

子ども達が思い思いに、そこにあるもの（新聞紙、ペン、シール、ポリ袋、段ボールなど）で工作をして楽しみました。新聞紙とテープでボールを作ってサッカーを始めたり、バスケットゴールにシュートしたり 子どもたちはどこでも遊びをみつけます。

避難所にきた。

これからどうなるのかわからない。

おとなは、ソワソワ、心配だらけ。
子どもも、ソワソワ、ぐずぐず、メソメソ。

こんなときこそ、あそびがくすり。
こんなときこそ、あそびがちから。

子どもたち、さぁ、あそぼう！

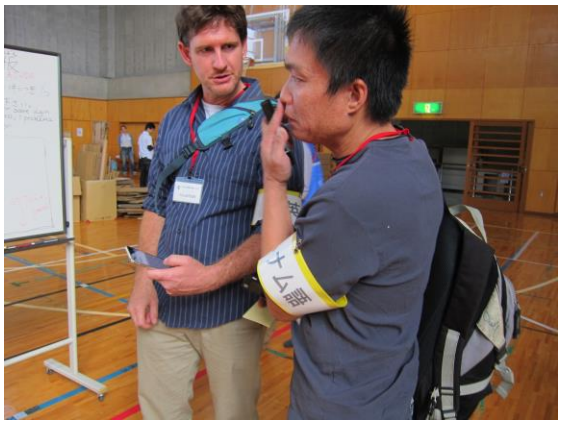
片岡祐介氏（音楽家）の
サバイバルミュージックCD付
ブックレット ひなんじょであそぼう！
みらいTALK（2015）制作

当日

２０１５
防災サバイバルキャンプ

## 災害時多言語ボランティア
## ～浜松国際協会　HICE　～

今年度は2家族4名の外国籍の障がいをもつお子さんとご家族が参加されました。そこで災害時多言語ボランティアに通訳を依頼し、一緒に避難所生活を送っていただきました。
予想されていたことですが、問診時から通訳を介してのやり取りで時間がかかり、またルールの説明についても、うまく伝わらない部分がいくつか見受けられました。お子さんの障がいに加えて、言葉の壁や文化の壁といった社会的障がいが大きく、通訳がいても難しさを感じました。今回参加されたご家族は大変防災に関する意識の高いご家族であり、日本での生活も長い方々であったこともあり、最後まで無事参加していただくことができましたが、実際の場面では通訳がタイミングよく同席してくれる可能性も少なく、また日本の文化や避難所のルールなどについて理解を示してくれる方は少数派であることが予想されます。また災害の情報や避難に必要な情報が届かなかったり、避難所までたどり着けることが困難なことも予想されます。
普段から他国籍の方々のコミュニティ（教会や学校など）と自治会あるいは行政が繋がりを持ち、お互いが顔見知りとなっていることがこうした事態を回避できる近道と考えます。
また福祉避難所に限らず、避難所全体の案内もピクトグラムを有効活用しつつ、英語やポルトガル語、ローマ字表記なども事前に準備しておけるとよいと思われます。



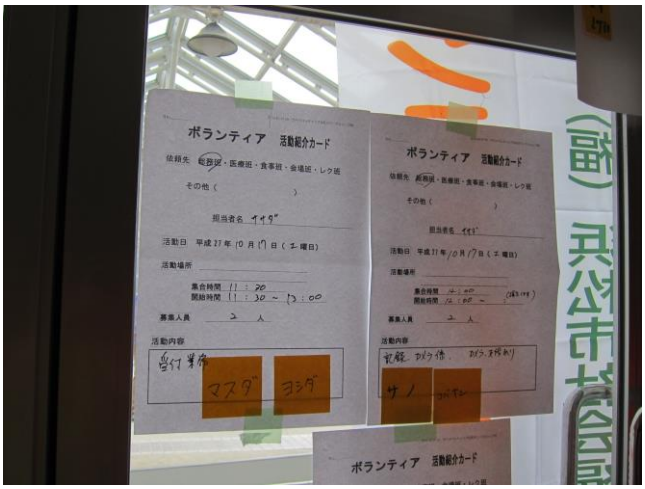
## 災害ボランティアセンター

人員配置の適正化は、昨年度の課題でした。
今年度は浜松市社会福祉協議会の協力で災害コーディネーターとともに避難所内に災害ボランティアセンターが設置されました。
ボランティアは、一旦ボランティアセンターに登録していただき、各部署がボランティア派遣依頼書に必要事項を記入して、依頼する形をとりました。このことで必要な時に必要な人員が配置され、ボランティアさんの力を効率的に発揮していただけることになり、大変スムーズに作業を進めることができました。

ボランティアセンターでは登録された仕事（内容と人数）、登録した人を、色分けしたふせんで整理されていました。

また、お子さんがいるため、自ら動いて支援を求めにいくのが困難な人を想定して、ボランテイィアセンターのスタッフが、御用聞きにまわりました。

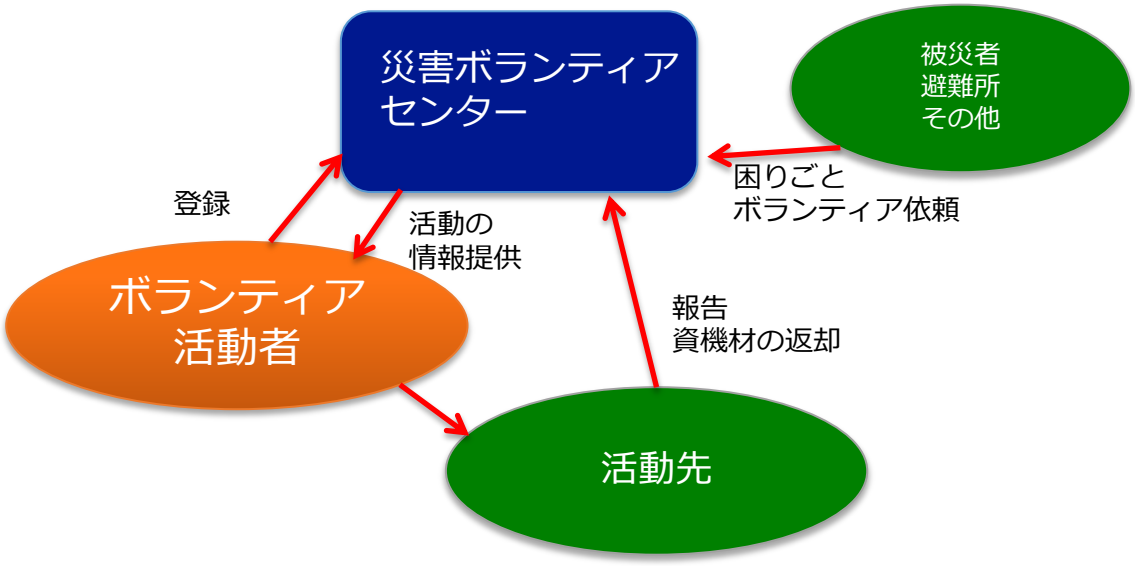
フォーマットが整えられているおかげで、仕事の依頼の仕方も、キャンプの後半になると、人、時間、内容等、的確に依頼できるようになりました。




10月17日　登録21名
★依頼件数15件
★派遣件数15件
★延べ派遣数71名

10月18日　登録16名
★依頼件数7件
★派遣件数7件
★延べ派遣数46名

## 災害ボランティアセンターのしくみ




## ボランティア活動の流れ

| | |
|---|---|
| **受　付** | 受付カードの記入<br>ボランティア保険加入の確認 |
| **オリエンテーション** | 心構え<br>注意事項説明 |
| **マッチング** | 活動の紹介 |
| **活　動** | |
| **報　告** | 他のニーズはあるか？<br>問題はなかったか？ |
| **クールダウン** | 気持ちをおちつかせて帰りましょう。 |

# 全体統括・本部

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○積極的に手を挙げてヘルプを出していただくようお伝えし、頼んでもいい体験をしてもらえた
○玄関（入口）の視覚的構造化やしゃもじにラップをつける等、私たちにとって当たり前となっている工夫が随所にあり、それを言語化する必要がある
○避難所の真ん中に段ボールテーブル（段ボールベッドの見本）があって集まりやすかった
○問診シートがよかった（情報を共有化できる）
○スタッフだけで動くのではなく、今回はボランティアを積極活用できた
○モバイル型スピーカー（JBL）が拡声器より声を届けるのによかった

●今回は実際の避難所での対応を想定して、最初に参加者の年齢や性別、子どもの障害の種別や程度などの基本的な情報を収集し、居住スペース配分を行い、その後で細かな配慮事項を聴取するという手順を取った。しかし、時間的な制約からそれを同時に聴取することになった。このことから、「同じことを繰り返し聞かれた」「重複して聞かれた」と感じる参加者の声があり、スタッフからも同様な声が聞かれた
●実際には基本的な情報収集→スペース配分→詳細な聴取という２段階の聴取がなされるわけだが、今回はボランティアスタッフに事前に詳細な説明を行っておらず、その点、誤解の生じる結果となってしまった
●問診を先にしたことで荷物搬入がおそくなった
●問診を1人5分くらいでできるといい
●問診を早くするためにも受付で先に問診票記入できる場所の設置が必要
●名札やテープが夜になると見えない
●お金の管理をしている人の居場所が明確でなかった
●「積極的に声をあげてください」がテーマの１つだったが、まだ出しにくい様子だった
●マスコミや行政の人などがわかるような腕章があるとよい
●難聴の方や言葉の不自由な方など他者からわかりにくい障がいの方がわかるような仕組みがあるとよい
●夜間などにトラブル（眠れない等）の時のSOSの出し方を決めておくとよい

◎受付で避難所のルールや注意事項説明が書いてあるとよい
◎マスク、消毒液、照明、紙コップが常備されているとよい
◎今後は問診は医療＋保育のペアで行い、重複を避ける必要がある
◎長期化を想定して、自治会組織の立ち上げや定期清掃・清拭の時間、食事の手伝いなどに参加者に参加してもらうことも必要である
◎伝言板にそれぞれのスタッフやリーダーの居場所を書くとよい
◎参加者も一緒に避難所運営、管理に参加できるといい
◎年長の子ども（小学校高学年以上）に役割（新聞紙などで食器作りやお盆作り、紙コップ作りなど）

# 医療（健康管理）

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○医師5名、看護師2名、医療系学生ボランティア10名いたので充実していた
○問診票を用意したのはよかった
○夜間も含めて大きな体調不良はなかった

●問診情報を他の班（特に保育）と共有化できるとよかった
●脱水の指標（尿量や濃さ、末梢循環など）を記録できるといい
●吸引器と酸素モニターのバッテリーが切れた（人工呼吸器は外部バッテリーで大丈夫だった）
●喘息の子対策（ホクナリンテープやパルミコートの常備）が必要

◎毎朝の健康チェック表（睡眠、排尿、排便、食欲など）があるとよい

# 食事

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○「おにぎらず」でゴミが減少した
○食べられるお皿がよかった
○はじめのうちは応援を呼ぶことができていなかったが、2日目はボランティアセンターに配送を依頼できた

●炊き出しステーションは避難所運営側が利用するのは難しい（ご飯の処理・掃除に水を大量に使用する）ので、アルファ米を追加した
●紙食器や新聞紙で作った食器をリサイクルできるとよい
●食事が贅沢だったので、一食だけでも質素にしたほうがよかった
●母親の中には、調理過程をみたいという意見もあり、今後は避難所内の自治会で調理分担を決めるのもよいかと思った

# 災害ボランティアセンター

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○ボランティアセンターがあると人員配置にとても助かった
○ボランティアは全員ボランティアセンターに登録し、要請に応じて派遣する形をとることで、効率的にボランティアの力を得ることが可能となった（17日　登録21名、依頼件数15件、派遣件数15件、延べ派遣数71名、18日　登録16名、依頼件数7件、派遣件数7件、延べ派遣数46名）
○困りごとを出してもらえて、ボランティア参加者にとっても達成感を味わってもらえた
○ボランティアのおかげで片づけ、準備等、とてもスムーズにできた
○学生ボランティアがとてもよく動いてくれた

●開設当初、どの時間、どこにどれくらいの仕事があり、何人必要か把握できなかった（依頼票に記入するようにして解決した）
●派遣したあとボランティアが戻ってこなかったり、居場所があいまいとなった

◎できればNPO等で特化したボランティアセンターを1週間単位で福祉避難所に配置・設置できるとよい

# 災害時多言語ボランティア

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

●受付で基本的な情報を聞き取りする段階で、他の参加者と比べておよそ３倍程度の時間を必要とした
●通訳を介したやりとりも受付の意図が伝わりにくかった
●携帯の充電を一般電源からとっている方がいて、ルールが十分伝わっていなかった
●受付でその家族の言語、どこの国の言語なのかわからなかった
●ピクトグラムがあるとよいが、日本式の『ｉ　(インフォメーション）』は通じない
●問診表に関して項目を順に追って聴取してゆくのに時間を要した。
●言葉の意味がくみ取れないことが多く生じた

◎ピクトグラムを多用して理解を促すのがよいのではないか
◎また、現在、外国人の中長期在留者に対して、「在留カード」が交付されている。このカードには外国人在留者としての基本的な情報が記載されているので、最初に「在留カードをお持ちなら見せてください」というだけで基本的な情報は得られるという貴重なお話を伺うことができた
◎今後の課題解決に向けて、通訳に当たるスタッフに事前に情報を渡しておくだけでも効率は改善する可能性が高い。避難所の運営者は多言語支援のスタッフと連携をはかってゆく必要があるだろう
◎AEDや避難所説明などには英語表記、ポルトガル語表記、ローマ字表記あるいはカタカナ表記（カタカナは読める外国籍の人は多いため）があるとよい

# トイレ

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○簡易トイレはよく使用されていた
○今年は照明が明るくてよかった

●消臭剤やオムツ処理コーナーがほしい
●トイレの汚物処理を確認する必要があった

# 避難所

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

●もっとスタッフ人数がいたらよかった
●パーテーションが少なかった
●寒さ対策がもっと必要だった
●照明の配置にもう少し打ち合わせ（特に食料班）が必要だった
●伝言板の利用が少なかった
●ボランティアセンターに実際の場面ではどうやって連絡を取るのか
●蚊取り線香があるとよかった
●更衣室の有効利用できるとよかった
●段ボールベッドが硬かった

◎段ボール提供してくれている浜名梱包さんと災害時応援提携を結べるといい

# レクリエーション＆託児

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○新聞紙などでよく遊べていた、新聞遊びだけで1時間あっという間だった
○音（ピアノなど）があると楽しめていた（電池式キーボードがよかった）
○名前の呼び方など事前に聞き取りできていたのでよかった
○情報収集ツール（問診シート）があって助かった、かなり早く子ども達の特性理解ができた
○光の効果的な使い方ができた
○夜のレクリエーションはお金も準備もなくても楽しめた
○明るかったので子どもの確認がしやすかった

●医療問診との連携・タイミング
●入所当初、子どもだけでいた場合、どの子がどこの家庭の子かわかりにくく、名札に避難所内番号（住所）が書いてあると良い
●暗い中で、どうやって子どもの人数を把握するかが課題
●なるべく「お子さん」という言葉を使わない（名前で呼ぶ）
●託児のときに医療的ケアが必要なお子さんがいて、ボランティアセンターに看護師派遣の依頼を出せばよかった
●年齢の高い子（小学校高学年以降）が楽しめるレクリエーションや居場所が必要

# ワークショップ

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○家族で体験できたのがよかった

●途中で飽きてきていた子どもがいた

# 座談会

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○アロマがよかった
○ペットボトルランタンがよかった

●もう少しお互いに繋がれるとよかった

# 参加者の声

（○は良かった点、●は課題となった点、◎は改善できるとよい提案）

○簡易トイレを体験できてよかった
○スケジュールが昨年よりゆったりで楽になった
○ワークショップはわかりやすかったが、子どもがしびれをきらしていた
○3回目の参加ではじめてぐっすり眠れていた（ふだんから慣れておくことが大切）
○トイレが前回より明るかったのでよかった（ペンダントライトがよかった）
○それぞれの家庭で対策をよく考えていることがわかった
○初めて体育館で寝る経験をできてよかった
○明かりのあるなしが大事だと思った
○ワークショップで学んだ避難で必要な10品目など必要なもの・ことを学べた
○暗闇が苦手な子なのでLEDランタンが大切だと思った
○何を避難所に持って来たらいいか悩んだが、体験して学べればいいと思った
○兄弟はふだんテレビやゲームで遊んでいるので、避難所でどうだろうと思ったが、他の子どもたちと遊ぶことで発散できていた
○物資はそろえればいいが、人との繋がりは普段から交流しておくことが大切だと思った
○子どもが昨年の体験を覚えていた（子どもと相談しながら色々活動できた）
○今年は食事もおかわりしていた（本来ならもらえないと思うが）
○ワークショップで冷蔵庫の中身を使っていくことを学べてよかった
○他人にお願いしたり、発信することの大切さを学んだ
○段ボールに落書きしている様子をみて空き時間の過ごし方も大切だと思った
○吸引器のバッテリーがどれくらい持つかわかった
○ショートステイでは寝れないが、今回は家族が一緒だったこともあって寝れた
○下の子も一人で遊びを考えて、他の子と遊んでいた
○食事をどうやって持ってくるか
○暗いところが苦手だったが、人が多くいたので安心していられた、夜も眠れた

●母親一人で子どもが複数いるので、ボランティアに子どもを見てもらわないといけなかった
●夕食をほとんど食べられず、持参したお菓子でしのいだ（長期化が不安）
●夫婦で参加できると子どもを一人にせず済むが、日中父親が仕事で不在だと大変だと思った
●電源対策が必要
●一般の避難所でどう対応してもらえるのか不安
●避難所でどうやって過ごすか考えておく必要がある
●普段考えている防災の知識や物品がかなり不足していることがわかった
●両親共働きで祖母も介護が必要で祖父母と子どもの3人と一緒の避難所生活は大変だと思った
●療育手帳を更新できなかったので、近くの一般の避難所に行かなければならないので心配
●基本的には自宅が大丈夫なら自宅避難を考えているが、災害時には父親が医療関係者で家にいないので母親一人でどうするか不安
●お気に入りの毛布を持ってきたが、たびたび起きていた
●定期的に体験しておくことが大切と思った
●この子を抱っこして、吸引器をもって逃げるのは無理なので、自宅避難が大切と思った
●実際、一般の避難所や他の福祉避難所で過ごせるか心配
●おにぎりが苦手で昨夜食べられなかったので、今後好き嫌いをなくしていくことが大切だと感じた
●夏だと蚊がいるので、虫よけスプレーなどが必要だと思った
●簡易トイレ体験で怖がってできなかったので、家で練習したい

## ◻　なぜここへ？
どうして？　家族の誰から？　きょうだいは？　参加前の心配は？

## ◻　たべる
非常食　/　水分　/　形態　/　アレルギー　/　こだわり・偏食　/　この子ならでは…

## ◻　物のこと　•　人のこと
たりない　/　あればよかった　/　あってよかった　/　必要ない /
避難所にあればいいのに　/　こまった　/　たすけられた　　etc…

## ◻　清潔
トイレ　/　手指洗い　/　洗面　/　着替え /　水　　/　汗 /　髪や体　/　器具　•　食具　etc…

## ◻　ねむる
くらい　/　いつもとちがう　/　せまい　/　ゆか　/　段ボールベッド　/　いろんな人といっしょ
不安　/　声　/　音　/　目線　/　夜のトイレ　etc…

## ◻　障がいをもつ子　•　小さい子
体調管理　/　こだわり　/　泣く　/　さわぐ　/　あそび　/　しらないひとがいっぱい
お母さん、お父さんが、ちょっといないとき　etc…

## ◻　いのちを守る
準備しておくべきこと　/　伝えること　/　おねがいすること

## ◻　真夏だったら？　真冬だったら？　長期化したら？

## ◻　おわりに
明日、災害がきたら、避難所にいきますか？

～家にかえったら、なにをしますか？～

# アンケート

## 障がいのある子と家族のための
## サバイバルキャンプ＆ワークショップ　2015
## スタッフ　アンケート

このたびは、ご参加•ご協力をありがとうございました。
今回のキャンプについて率直なご意見をおきかせいただけるとありがたいです。

■今回の企画をどこで知りましたか？

■運営　•　プログラムについて
よかった…○　まあまあ…△　改善が必要…×　未参加・わからない…(–)　をつけてください。

(　　)実行委員会
(　　)メーリングリストでの連絡
(　　)申し込み方法
(　　)事前の情報連絡
(　　)集合・受付・健康チェック
(　　)オリエンテーション
(　　)会場設営
(　　)簡易トイレ体験
(　　)ワークショップ「親子サバイバル教室」
(　　)夕食
(　　)座談会（おとな）
(　　)夜レクリエーション（子ども）
(　　)就寝～起床まで
(　　)ラジオ体操
(　　)朝食
(　　)振り返り（おとな）
(　　)朝レクリェーション（子ども）
(　　)閉所式・片付け

■もし次回参加するとしたら、どんな企画があるとよいですか？

■今回のプログラムで避難所生活のシュミレーションはできましたか？
(　　)できた　(　　)一部できた　(　　)あまりできなかった。
○その理由、ご意見をおきかせください

■避難所体験中、やむをえず通常の状態を使ったところは、どんなところですか？

■今回のプログラムに参加して、障がいをもつ子どもと家族が避難所生活をできると思いましたか？
(　　)できると思った　(　　)準備と配慮があればできると思った　(　　)できないと思った
○その理由、ご意見をおきかせください。

■障がいをもつ子と家族を避難所で受け入れる状況になった場合
1）障がいをもつ子のいる家族はどんな備えをしていただくことが必要だと思いますか？

2）避難所で、どんなものや配慮があるとよいですか？

■運営、班での準備等を含め、今回のキャンプについて、ご意見、ご感想を自由におかきください。

(　　)班

お寄せいただいたご意見、ご感想を、記録集や提言として匿名で掲載させていただいてもよいですか？
(　　)掲載可能
(　　)掲載は不可
(　　)その他＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

差し支えなければ、お名前をご記入ください。お名前（　　）

## 障がいのある子と家族のための
## サバイバルキャンプ＆ワークショップ　2015
## 参加者アンケート

このたびは、ご参加•ご協力をありがとうございました。
今回のキャンプについて率直なご意見をおきかせいただけるとありがたいです。

■今回の企画をどこで知りましたか？

■運営　•　プログラムについて
• よかった…(○)　まあまあ…(△)　改善が必要…(×)　未参加・わからない…(–)
をつけてください。

(　　)申し込み方法
(　　)事前の情報連絡
(　　)集合・受付・健康チェック
(　　)オリエンテーション
(　　)会場設営
(　　)簡易トイレ体験
(　　)ワークショップ「親子サバイバル教室」
(　　)夕食
(　　)座談会（おとな）
(　　)夜レクリエーション（子ども）
(　　)就寝～起床まで
(　　)ラジオ体操
(　　)朝食
(　　)振り返り（おとな）
(　　)朝レクリェーション（子ども）
(　　)閉所式・片付け

■もし次回参加するとしたら、どんな企画があるとよいですか？

■もし次回参加するとしたら、どんな企画があるとよいですか？

■今回のプログラムで避難所生活のシュミレーションはできましたか？
(　　)できた　(　　)一部できた　(　　)あまりできなかった。
○その理由、ご意見をおきかせください

■避難所体験中、やむをえず通常の状態を使ったところは、どんなところですか？

■今回のプログラムに参加して、ご家族で避難所生活をできると思いましたか？
(　　)できると思った　(　　)準備と配慮があればできると思った　(　　)できないと思った
★その理由、ご意見をおきかせください。

■ご家族で避難所に行く状況になった場合
1）ご自身でどんな備えが必要だと思いますか？

2）避難所で、どんなものや配慮があるとよいですか？

■その他、ご意見、ご感想を自由におかきください。

お寄せいただいたご意見、ご感想を、記録集や提言として匿名で掲載させていただいてもよいですか？
(　　)掲載可能
(　　)掲載は不可
(　　)その他＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

★差し支えなければ、お名前をご記入ください。　お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

おつかれさまでした。最後までご協力、ありがとうございました。
★★★みらいTALK★★★　障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ＆防災ワークショップ

## みらいTALKとは

当会は、障がいの有無や家庭環境にかかわらず浜松市及び近隣の地域に住む全てのこどもにとってより良いみらい、地域社会を築くことを目的とし、こどもに関わる多職種（医師、保健師、臨床心理士、保育士などが集まり、2009年５月より“こどものより良い未来を創る会”として活動し、2013年４月より“みらいTALK”に改称しました。こどもと家族、そしてそこに関わる人々を、“つなげる”“支える”“調べる”“広げる”事業を展開していきたいと考えています。

# 障がいをもつ子と家族ための防災サバイバルキャンプ運営マニュアル

ふじのくにNPO活動基金　助成事業
２０１６年３月発行
みらいTALK

メール　miraitalkhamamatsu@gmail.com
ブログ　http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv